

歌曲における母音の発音習得プロセスについて
—イタリア歌曲と日本歌曲、中国歌曲の比較分析に基づいて—

王 芳

・研究の動機

外国語の歌を原語で、その言語らしく歌うことがとても難しいと実感した。また中国国内では、歌詞の発音についての研究はほとんど行われていなかったために、今回の研究の必要性を強く感じた。

・本研究の目的

漢語とイタリア語、漢語と日本語の母音の発音の違いを知り、演奏にどのように生かすか、また発音の違いの比較研究が広がれば、母国語の発音習慣に影響されない演奏が可能になると考え、その方法を模索した。

・研究方法

- 1 イタリア語、漢語、日本語の母音を取り上げて、具体的な発音方法を分析
- 2 漢語とイタリア語、漢語と日本語に分けて、発音方法を比較
- 3 イタリア語、漢語、日本語の母音を発音する際の体の各部位の役割の検証

・まとめ

本研究により、漢語とイタリア語、漢語と日本語の発音には、大きな違いがあることが分かった。その違いを次に示しておく。

漢語の場合

- 1 口の開け方は横へ開けてから縦に開くが多い
- 2 口腔内のスペースはより狭い
- 3 顎の下げ方は強調しない
- 4 舌の位置は単母音の際には、前寄りの舌が多く、複合母音の際には舌の動きが組み合わさり大きく敏捷に滑るように変化する
- 5 唇は横へ開く楕円形が多い
- 6 顔の筋肉は単母音の際には、自然な状態、複合母音の際には力を大きく入れて動く。頬を上げることが非常に多い

イタリア語の場合

- 1 口の開け方は、縦に開くが多い
- 2 口腔内のスペースは広い
- 3 顎の下げ方は強調、より大きく下げる
- 4 舌の位置は単母音の際には後寄りの舌が多い。多重母音の際には舌が滑らず単母音と同じ様に動く
- 5 唇は縦の卵形が多い
- 6 顔の筋肉は単母音、多重母音ともに、力を入れて動かさず、口形を保つ。頬はあまり上げない

日本語の場合

- 1 口の開け方は、縦に開けてから横へ開くが多い

- 2 口腔内のスペースは狭い
- 3 顎の下げ方は強調しない
- 4 舌の位置は中寄りの舌が多い
- 5 唇は半円形が多い
- 6 顔の筋肉は力を入れず、ほとんど動かさない。頬はほとんど上げない